

P2-030

年長児を対象とした子ども達に「自分のからだ」を伝える活動の報告2—実施後の保護者アンケート結果から—

宮崎 つた子¹⁾、川瀬 浩子²⁾、佐野 和香¹⁾、菱沼 典子¹⁾三重県立看護大学¹⁾、
三重県立看護大学 地域交流センター²⁾

【目的】

子ども達に「自分のからだ」を伝える事業に参加の保護者と関係者の調査から、家庭での子どもの様子や保護者の思いを明らかにして今後の事業の取り組みを検討する。

【方法】

対象は、K市の3園での事業に参加した年長児73名の保護者と関係者である。事業の当日と1週間後に筆者らが作成した自記式質問紙調査を行った。調査は、園を通して紙面で依頼し、回収をもって同意とみなした。調査内容は、属性、事業に対する理解と考え、家庭での子どもの質問や会話の様子等から構成した。分析は、単純集計および記述統計を行い、自由記載項目は内容の整理を行った。倫理的配慮として、調査協力は自由意志である事、無記名で個人が特定されないこと等を紙面で説明した。なお、本調査は、K市教育委員会と各園の承諾を得て行った。

【結果】

調査用紙の回収は、当日に62名、1週間後は56名であった。回答者は母親が80%以上で年齢は30歳代が多かった。事業の満足度は、当日、1週間後調査ともに、「とても満足」、「満足」が90%を超えていた。満足度の自由記載内容では、「勉強になった」が最も多く、次いで「分かりやすい」、「体験ができた」であった。事業の推奨については、当日、1週間後ともに、80%以上の参加者が本事業を子どもや周りの人に薦めたいと感じていた。事業についての意見では、「わかりやすい」、「楽しかった」、「からだのことを知ることができて良かった」などの肯定的感想が多かった。事業参加1週間後の調査で、自宅での子どもの様子についての質問項目では、「(からだについての) 会話」は、「よくあった」、「少しあった」が80%を超えていた。「会話」の具体的内容は、「臓器の名前や位置、腕に浮き上がる血管について話をする」など臓器の会話や、「自分のおしっこの色と一緒に見てと言う」、「暑いからいっぱい水分取ってちゃんとおしっこする」など健康的な生活習慣を意識した話をした子どももいた。

【考察】

保護者の事業満足度は、当日の方が「とても満足」が高く、当日の印象が回答に影響していることが考えられた。また、自由記載内容からも共に参加し、体験できたことが満足感に繋がっていたと思われる。小学校入学前の子ども達に対し、「自分のからだを知る」ことを繰り返し行うことで、子ども達がからだの知識を毎日の生活と結びつけて、正しい習慣を獲得していく力を育成する一助になると考える。

P2-031

年長児を対象とした子ども達に「自分のからだ」を伝える活動の報告3—事業実施園のその後の取り組み—

川瀬 浩子¹⁾、宮崎 つた子²⁾、佐野 和香²⁾、菱沼 典子²⁾三重県立看護大学 地域交流センター¹⁾、
三重県立看護大学²⁾

【目的】

子ども達に「自分のからだを伝える事業」実施後に、独自に園でからだを伝える活動を行った取り組みから、事業の効果について検討する。

【取り組み例】

取り組みがあった園は、A園：公立、全園児数 60名(3～5歳児)、5歳児担任：女性1名(保育歴18年目) B園：公立、全園児数171名(0～5歳児)、5歳児担任：女性2名(保育歴11年目と2年目)であった。事業後の取り組みでは、A園の担任は、事業実施後も8種類の紙芝居を、機会があるごとに生活習慣と結び付け、教材にしていた。また子ども自身が、園の本棚より廃品を活用したおもちゃ作りの本をみつけ、それを参考に、ストローとゼリーのカップで聴診器をつくり、遊んだ。中には、本事業実施中に使用した2人用の聴診器を作成した園児もいた。B園では、夏祭りの際、毎年園の1室を利用し、年長児が迷路を作成している。今年度は、担任が本事業の学びを活かしたいと考え、「たべもののおりみち」迷路を提案した。迷路作成時、子どもたちは、紙芝居の内容を覚えており、「歯は20本じゃない」と本数にもこだわったり、胃液のシャワーを再現したいと自ら工夫した。2日間の夏祭りで、1日目は年長児が迷路の説明を担当し、年中・年少児に紹介した。2日目の説明担当はスタッフ・保護者で、年長児自身が遊んだ。担任より、年長児は説明を担当することにより、より「自分のからだ」への学びが深まり、また年中・年少児は年長児へのあこがれを感じる場面もあったと報告された。

【考察】

担任は事業実施後もからだの知識を毎日の生活体験や園の行事と結びつけ、発展させていた。また、子ども達はおもちゃや迷路を、学びを活かして主体的に作成していた。事業実施時だけでなく、担任が継続して支援することにより、より子どもは「からだ」について学んでいた。本事業は担任の新たな教材や指導方法の工夫の展開といった人材育成にも繋ると評価できる。